



兵庫教育大学大学院同窓会総会・研究大会大阪大会

8月6日(土)・7日(日)、標記大会を大阪市の「ホテルアウィーナ大阪」において、「自らの教育道を『水都大阪』でより広く、高く創造しよう!」をテーマに開催しました。この大会は昭和57年2月の初回大会以来、毎年各地区支部の持ち回りで開催しているもので、今回は大阪府支部を中心に近畿③ブロック(奈良県支部・和歌山県支部)が力を結集し第36回目を数えました。大阪府・大阪市・堺市各教育委員会の後援事業としてそれぞれから来賓のご臨席を得、北は岩手県から南は沖縄県まで22都府県の修了生・在学生と大学関係者など、合わせて136人の参加がありました。吉原照昌大会実行委員長を中心にブロックの各支部から集われた委員の皆さま方が、細かい配慮の行き届いた心温まる大会を創りあげていただきました。ありがとうございました。



8月6日の同窓会総会は、川村庸子会長の開会挨拶から始まり、議案として平成27年度の事業報告や会計決算報告、平成28年度の事業計画や会計予算案等について審議が行われ、原案どおり了承されました。続いて、アピールする大会に向け矢野真樹子副会長(平成28年度前期院生協会会長)から大会宣言が読み上げられました。



研究大会は、吉原実行委員長の挨拶に続いて、お越しいただいた各来賓からの祝辞があり、上寺久雄元学長からは激励の言葉をいただきました。続いて、福田光完学長により、『記憶力を保つために』と題して、日常生活の中で起こる事柄や行動に関する情報を正しく記憶し、保つための身近な訓練法について講演が行われました。そして、『中村道子の園経営と園長の品格』と題して、松村紀代子氏(幼年教育コース31期)が、昭和の激動期を愛珠幼稚園と共に生きた中村道子園長の人生観や教育観、先進的な幼児教育への取り組み等について研究発表を行いました。研究発表をもとに、田中亨胤名誉教授からは『大阪の[愛珠]という幼児教育』と題して、時代を超えたこれからの教育のあり方について、トップリーダーとしての使命や責任、品格や人間力を中心に六つの視点から講話が行われました。



続いて、特別企画として研究会会場は寄席の舞台上に早変わりし、落語家の桂吉弥氏による上方落語『かぜうどん』が演じられました。間近に見ることでその息づかいまで感じる事ができ、磨かれた芸の数々に思わず引き込まれ、見とれたり聞きほれたりしながら演者と参加者が一体となって会場は笑いに包まれました。教材としての落語から「相手を意識した間の取り方や喋り方・聞き方」の極意を学び、それは日



々の授業や教育活動にも通じるもので、落語に学ぶ良い機会となりました。

また、研究大会の恒例となった「教育実践研究活動等に係る表彰」が行われました。大学院を修了後、優れた教育実践研究活動等を行い大学及び大学院同窓会の名誉を高めその発展に寄与された 4 人の同窓会員の方々に福田学長及び川村会長から嬉野賞等の賞状並びに記念品が授与されました。

嬉野賞 3 名：大前 泰彦（和歌山県，生徒指導 14 期）

小西 豊文（大阪府，教育方法 3 期）

藤井 一 亮（兵庫県，社会系 7 期）

奨励賞 1 名：小橋 拓司（兵庫県，社会系 24 期）



研究大会の最後に参加者全員で記念の集合写真を撮りました。

平成 29 年度は、埼玉県支部を中心に関東ブロックが力を合わせ、会場は東京都のアルカディア市ヶ谷で 8 月 5 日（土）・6 日（日）に開催することの予告と参加の誘いが松尾鉄城副ブロック長から行われました。全国各地から集まり、今大会が成功裏に終わったことを祝し、また来年度東京での再会を約束しました。



情報交換会では、各県から持ち寄られた銘酒に舌鼓を打ちながら、懐かしい学生生活を語り合い、旧交を温め合う姿があらこちらで見受けられました。

2 日目は巡検が行われ、全員で大阪歴史博物館を見学した後、二つのグループに分かれ適塾や研究発表の舞台でもある愛珠幼稚園などを巡りました。大阪の北船場に今なお残る貴重な文化遺産に触れ、時代の変革期に生きた先人の魂を感じるとともに自らの教育道を振り返り、心に残る巡検となりました。

